

# 研究交流棟竣工式並びに 第2回成果発表会開催報告

## つくばでの開催

防災科学技術研究所が独立行政法人となってから2回目の成果発表会が去る4月22日(火)に研究交流棟の竣工式と合わせて開催されました。研究交流棟が完成したことで、つくばでの開催となりましたが、県内外から350名近い参加者があり、盛況に終わることが出来ました。

また、研究交流棟の竣工式では、建設に関わって頂いた関係者に理事長から感謝状が授与されました。さらに、記念のくす玉割りには、地元の大曽根小学校から二人の生徒が招かれ、地域に密着した施設としてのアピールに一役買っていただきました。

## 山根一眞氏が記念講演

成果発表会に先立って、ノンフィクション作家、山根一眞氏の記念講演が行われました。阪神・淡路大震災直後に現地へ向かった時の貴重な体験談や日頃から備える身近な防災手段を独自の視点から語っていただきました。研究者とは違った立場からの話を聞くことが出来る貴重な機会ということで、参加者は勿論、防災科研の研究者も真剣に耳を傾けていました。

## 講演発表

成果発表会の講演は、東海地震、実大三次元震動破壊実験施設、リアルタイム地震情報伝達、都市を襲う水災害についての発表が4件ありました。特に、最近では東海地震や東南海、南海地震の発生が迫っているなどの報道が新聞紙上でたびたび取り上げられるなど、一般の方々の関心も高いようで、交流棟の発表会場は満席状態でした。発表内容についても、とても良かったという感想を多数いただきました。



## ポスター発表

ポスター発表では、地震、火山、大雨、洪水、土砂災害、雪氷などの各分野から18件の発表がありました。また、地震計や地すべり分布図の展示説明も行われ、さらに、雪崩や地震の際の液状化現象を簡単な実験で再現できるコーナーもあり、開放的な交流棟アトリウムでの発表は混雑もなく、大変盛況でした。

## 多くのご参加 ありがとうございました。

今回の成果発表会は、研究交流棟の竣工式と合わせ行ったため、参加人数も予定より多く、発表会場に入りきれない方もおり、セミナー室を第2会場として使用しました。つくば研究学園都市の施設の中でも防災科研は交通の便が良くないにも関わらず、大変多くの方々に参加頂いたことは、防災科研が行っている研究について、関係者の

多くが興味を持たれ、なおかつ、防災研究に期待していることと受け止めています。

発表会終了後の懇親会にも多くの方々が参加され、参加者からは貴重な意見を頂くことができ、大変有意義な1日となりました。

第2回成果発表会のアブストラクトは下記ホームページで公開しています。

<http://www.bosai.go.jp/lab/jpn/kouryuu/abstract.html>

## 第44回科学技術週間一般公開

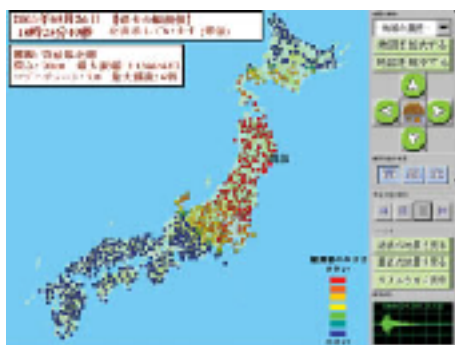
### 川崎ラボラトリー初公開

今年も4月18日(金)19日(土)に、つくば・長岡・新庄・川崎で一般公開を開催し、約800名の方々の参加がありました。

昨年10月に開所した川崎ラボラトリーは、「大地震がきたら川崎はどうなるの?」「ロボットはどんな活躍をするの?」と題して、災害シミュレーションや救助ロボットを紹介し、子供

にもわかりやすく好評でした。

つくばの本所では、毎年好評な実験教室・地震体験・降雨体験に加えて、リアルタイム地震情報の公開を初めて行ないました。これは2台のディスプレイの片方で地震の揺れが到着する数十秒前からカウントダウンをするシステムを表示し、もう1台では今起った地震波が震源から広がっていく様子をアニメーションで表示するものです。何秒後にどこでどのくらい揺れるのかが警報とともに表示された後、その地震の波が広がっていく様子を見ることができると、当日起きた地震の時に居合わせた来訪者の方は、今起っている地震の情報であることが信じられないようでした。



地震波のアニメーション  
過去の地震も見ることができます